

初のサッカー女子プロWEリーグ開幕

目標は女性活躍社会の実現

サッカーの女子プロリーグ「WEリーグ」が誕生し、12日に5試合が日本各地で行われた。来季5月まで11チームがホームとアウェーで総当たりし、初代チャンピオンを目指す。優勝賞金は2000万円。

午前に行われた開幕戦は、INAC神戸が大宮に5-0で快勝。前半4分に高瀬愛実選手がリーグ第1号のゴールを記録した。



WEリーグ開幕戦の前に整列するINAC神戸(右側)と大宮の先発イレブン

三菱重工浦和と日テレ・東京ヴェルディの強豪同士の対戦は、三菱重工浦和が2-1で逆転勝ち。広島はちふれ埼玉を3-0で下し、長野は新潟を3-1で破った。マイナビ仙台とノジマ神奈川は模原は0-0で引き分けた。千葉はこの日、試合がなかった。

サッカーの2022年ワールドカップ(W杯)カタール大会アジア最終予選が始まった。B組の日本は大阪で行われた2日のオマーン戦に0-1で敗れ、前回大会の最終予選に続いてホームでの初戦を落とす苦しい幕開け。しかし、7日のカタール・ドーハでの中国戦は1-0で勝ち、1勝1敗でB組4位のスタートとなった。

リーグ名の「WE(ウィー)」には、女性が社会で活躍することの意味が込められている。リーグ代表者の岡島喜久子チエは、女子サッカーがまだ根付いていない1970年代から男子と一緒にプレーし、その後、女子日本代表に選ばれた。岡島チエは開幕にあたり、「日本の女子スポーツの歴史がきょう動く。多様な生き方と夢が生まれる社会を目指す」と宣言した。



後半、勝ち越しのゴールを決め、喜ぶ浦和の塩越柚歩選手(右端)ら

最終予選は、2次予選を勝ち上がった12チームが6チームずつのA、B組に分かれ、来季3月までホーム・アンド・アウェー方式で対戦。各組の2位までがW杯出場権を獲得する。



中国戦の前半、先制ゴールを決め、喜ぶ大迫選手(中央)。左から2人目はアシストした伊東選手

高校女子野球の決勝、甲子園で初の開催

硬式野球の第25回全国高校女子選手権大会の決勝が8月23日、初めて兵庫県の甲子園球場で行われた。「女子の野球にも甲子園のような大会がほしい。こういう女子選手の声を耳にした高校野球関係者が話し合い、今年それが実現した。男子の第103回全国高校野球選手権の開催期間中に、女子の決勝1試合だけが組み込まれた。

準決勝までは兵庫県の丹波市内で行われ、決勝に勝ち上がった神戸弘陵(兵庫)と高知中央(高知)が甲子園で対戦。神戸弘陵が4-0で勝ち、5年ぶり2度目の優勝を果たした。野球部ができ



1回表智弁和歌山、渡部海選手(中央)がタイムリー二塁打を放つ。左は智弁学園先発の西村王雅投手

て3年目の高知中央の初優勝はなかった。

新型コロナウイルスの影響で無観客での開催となったが、神戸弘陵の島野愛友利投手は「女子選手の夢がかなった瞬間だった。これからずっと、目指す場所が甲子園であり続けてほしい」と、来季以降も女子選手が甲子園でプレーできることを願った。

男子の全国高校選手権は、新型コロナウィルスのため昨年の大会が中止となり、今年は2年ぶりの開催。兄弟校同士の対戦となった決勝は、智弁和歌山(和歌山)が智弁学園(奈良)に勝ち、21年ぶり3度目の頂点に立った。



過去の名シーンを振り返ります
スポーツアーカイブ

2012年9月

五輪出場の夢はかなわず

山口選手、ぎふ清流国体で世界新



世界新記録をマークした山口選手の力泳

今から9年前の2012年9月15日、岐阜市の長良川スイミングプラザで開催された第67回国民体育大会「ぎふ清流国体」の競泳男子200メートル

山口選手は、18歳の山口観弘選手が2分7秒01の世界新記録を樹立した。同年7月開催のロンドン五輪で優勝したダニエル・ジュルタ選手(ハンガリー)の2分7秒28の世界記録を上回るタイム。しかも、風や日差しなど天候の影響を受けるなどして好タイムが出にくい屋外プールでの世界新記録は、日本だけでなく世界を驚かせた。



世界記録を塗り替える表彰状と世界新記録証を手にする山口選手